

工業簿記 A		講義	教授 白山 真一
科目カテゴリー	会計ファイナンスコースの 選択必修科目 教職科目	科目ナンバリング	23010203 25320209

1. 授業のねらい・概要

工業簿記は、“ヒト・モノ”といった経済的資源を投入（インプット）して、“製品”を産出（アウトプット）する過程、すなわち“製造過程”を簿記という手法によって、組織的・体系的に帳簿に記載し計算をする会計技術です。工業簿記は製造業では不可欠の仕組みですが、工業簿記の基礎をなす原価計算の考え方は、製造業のみならず、サービス産業や IT 産業、また、非営利組織である学校・病院や公的組織である政府・地方公共団体においても重要なものとなっています。

本講義では、工業簿記を理解するうえで、必要な基本的用語や考え方の説明を行うとともに、各計算手法についての習得することを目的とします。日商簿記 2 級工業簿記の受験にチャレンジできる基礎を身につけるような授業を実施します。

2. 授業の進め方

各回について、以下の 8. に記載のテキストを利用した講義形式で実施するため、受講を希望する学生は必ずテキストを購入して授業に持参して下さい。また、計算演習問題を授業中に実施することもあるため、毎回電卓も持参して下さい。

3. 授業計画

1. ガイダンス ―工業簿記とは？―	8. 製造間接費の部門別計算 ①（2 次配賦/3 次配賦）
2. 材料費 ①（直接材料費・間接材料費/材料勘定記入）	9. 勘定記入と財務諸表
3. 材料費 ②（材料の消費単価・消費数量/予定消費単価）	10. 個別原価計算 ①（個別原価計算の基礎）
4. 労務費（直接労務費・間接労務費・予定賃率）	11. 個別原価計算 ②（原価計算表と勘定元帳との関係）
5. 経費（直接経費・間接経費）	12. 前期のまとめ
6. 製造間接費（製造間接費とは？/予定配賦率）	
7. 製造間接費の部門別計算 ①（1 次配賦）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業のテーマについて、テキストの該当箇所のざっと目を通して下さい（30 分程度）。また、復習は、教科書の各 CHAPTER に記載されている練習問題を実施して下さい（30 分程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日商簿記検定 2 級工業簿記の合格に必要な計算問題や仕訳について毎回 10 分程度の簡単なミニテストを実施し、解説します（このミニテストの結果は成績評価には関係しません）。課題としては「定期試験」のみであり、試験実施の際等に解答例を配布します。

6. 授業における学修の到達目標

工業簿記の基本的な概要を理解して、日商簿記検定試験 2 級工業簿記に合格できるための「基礎」レベル程度の習得を到達目標とします（後期開講予定の工業簿記 B を受講すると、日商簿記検定試験 2 級工業簿記の全範囲を習得でき、合格レベルに到達するイメージです）。

7. 成績評価の方法・基準

原則として、授業への取り組み姿勢（50%）および定期試験の結果（50%）によって、評価します。

8. テキスト・参考文献

テキストは、よせだあつこ著『パブプロ流でみんな合格 日商簿記 2 級工業簿記 テキスト&問題集 2021 年度版』（翔泳社）を使用します。工業簿記は基本的な考え方を理解すると同時に、自分で手を動かして計算問題を解いたり仕訳を書い

たりして、身体で覚えることがとても重要です。つまり“習うより慣れろ”ということです。そのため、テキストに記載のある日商簿記検定2級問題集なども授業と同時に各自で実施することをお奨めします。

9. 受講上の留意事項

受講の要件としては、商業簿記の基礎知識があることが望ましいですが、基礎知識がない受講者でも理解ができるように解説していくので、疑問点や不明点は遠慮することなく、積極的に問いかけてください。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当します。本授業は、監査法人における公認会計士業務として、製造業の原価計算に対する監査現場経験等を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。